



# 2050年小山町ゼロカーボンシティの 実現に向けた脱炭素ロードマップ



# 目次

## 1. はじめに

1-1 脱炭素ロードマップについて	P 3
-------------------	-----

## 2. 現状

2-1 小山町の基本データ	P 4
---------------	-----

2-2 地域特性の把握	P 6
-------------	-----

2-3 地域内の CO2 排出量	P10
------------------	-----

2-4 地域における CO2 削減に向けた取り組みの現状	P11
------------------------------	-----

2-5 地域における再生可能エネルギーの導入状況	P12
--------------------------	-----

## 3. 小山町の持つ再生可能エネルギーポテンシャル

3-1 地域再生可能エネルギーポテンシャルとは	P13
-------------------------	-----

3-2 小山町の再生可能エネルギーの導入ポテンシャル	P15
----------------------------	-----

## 4. 現状から考えられる課題

4-1 太陽光発電の導入推進	P20
----------------	-----

4-2 省エネ施設への転換	P20
---------------	-----

4-3 エコモビリティの充実	P20
----------------	-----

4-4 エネルギーの地産地消	P20
----------------	-----

## 5. 脱炭素シナリオとロードマップ<sup>o</sup>

### ■ 5-1 脱炭素シナリオ

P21

- Ⅰ (1) 脱炭素基本目標
- Ⅰ (2) 2030年までのCO<sub>2</sub>削減必要量
- Ⅰ (3) 削減目標の詳細
- Ⅰ (4) 短期目標を達成するための削減目標

### ■ 5-2 脱炭素ロードマップ<sup>o</sup>

P24

- Ⅰ (1) 目標を達成するための施策（区域編）
- Ⅰ (2) 目標を達成するための施策（事務事業編）

## 6. ゼロカーボンシティに向けた推進体制

### 6-1 推進体制と進行管理

P41

### 参考資料 1. 資料・データ

### 参考資料 2. 用語編



# 1. はじめに

## 1-1 脱炭素ロードマップについて

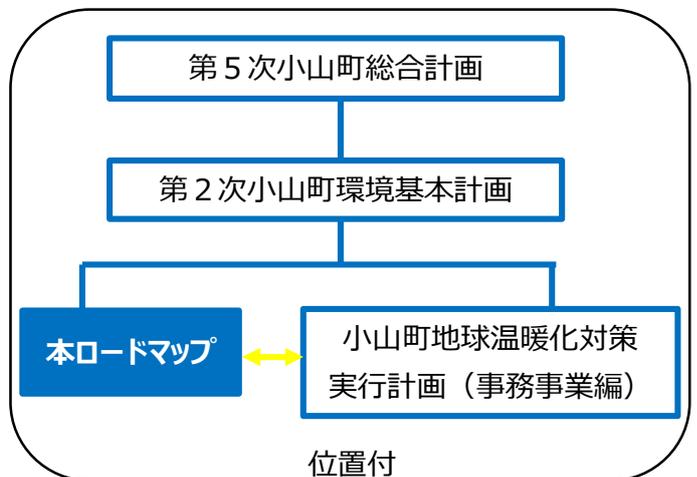
### 1. 脱炭素ロードマップ策定の背景・目的

- 小山町では「第5次小山町総合計画（計画期間令和3年度から令和12年度）」の基本項目中に「富士山と共に生きるまち」を設定し、恵まれた環境の保全や地球温暖化対策の推進、資源循環型社会の構築等の基本施策を掲げています。
- 令和6年3月に策定した「第2次環境基本計画※」には、「富士山とともに生きる 豊かな水と緑にあふれる 持続可能なまち おやま」を掲げ、総合的な地球温暖化対策や交通の脱炭素化、エネルギーの地産地消等に取り組む事とし、その施策の1つとして脱炭素ロードマップの策定を設定しています。
- 町は、2022（令和4）年3月に「小山町ゼロカーボンシティ宣言※」をし、2050（令和32）年までに二酸化炭素（以下、「CO2」）排出実質ゼロを目指し、脱炭素社会の実現に向けて取り組んでいます。
- 本ロードマップは、町のゼロカーボンシティ実現に向け、主に再生可能エネルギーの活用やエネルギーの効率的な活用等について、具体的な脱炭素に係る取り組みを示すものです。



### 2. 位置付けと計画期間

- 本ロードマップは「第5次小山町総合計画」及び「第2次環境基本計画」を上位計画とし、「小山町地球温暖化対策地方公共団体実行計画（事務事業編）※」と相互に連携し、2050年にゼロカーボンシティを実現するため、具体的な取組・スケジュールについて策定するものです。
- 計画期間は、2050（令和32）年とし、2030（令和12）年までの短期目標を設定します。なお、2030（令和12）年排出量の公表が見込まれる2032（令和14）年を目途に本ロードマップの見直しを実施します。



## 2. 現状

### 2-1 小山町の基本データ

#### 1. 地理・位置情報

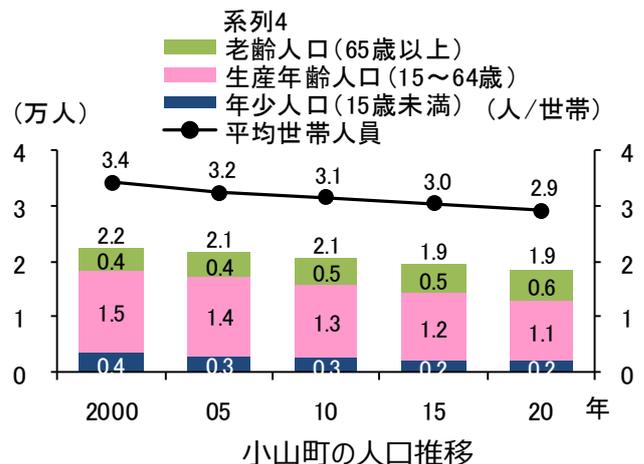
- 小山町は、静岡県東部に位置する町で、富士山の南東麓に広がっており、東西に神奈川県と山梨県が隣接し、豊かな自然環境に囲まれています。
- 町域は東西 26.0km、南北 13.3km で総面積は約 135.74 km<sup>2</sup>。標高差は 3,500m 以上あります。
- 町の南東部に東名高速道路が、須走地区には東富士五湖道路が通っており、今後は新東名高速道路が開通予定です。一般道は、中心部を国道 246 号が、須走地区に国道 138 号が通っています。なお、東名高速道路には、足柄 SA・SIC が設置されており、新東名高速道路には、(仮称) 小山 PA と (仮称) 小山 SIC が設置される予定です。
- 鉄道は沼津駅と国府津駅を結ぶ JR 御殿場線が通っており、町内には、JR 駿河小山駅と JR 足柄駅を有しています。

※SA：サービスエリア SIC:スマートインターチェンジ PA：パーキングエリア



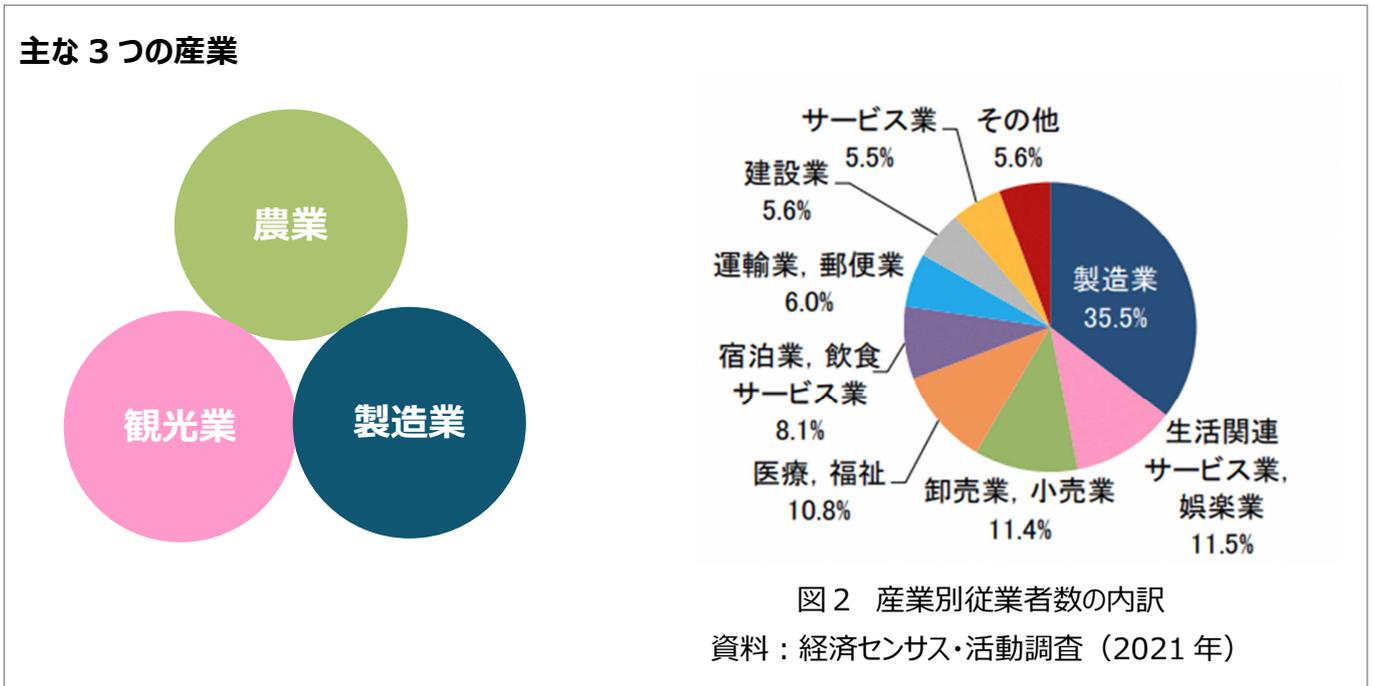
## 2. 人口

- 2024（令和 6）年 4 月 1 日の本町の人口は 17,042 人、世帯数は 7,427 世帯でいずれも減少傾向にあります。
- 15 歳未満の年少人口は減少を続ける一方で 65 歳以上の高齢者人口は増加を続けており、2020（令和 2）年時点で総人口に占める年少人口の割合は 11.7%であるのに対し、高齢者人口は 30.1%となっており、少子高齢化が進んでいます。



### 3. 産業

○2021（令和3）年経済センサス・活動調査によると、町の主な産業は製造業が最も多くなっており、次いで生活関連サービス業、卸売・小売業となっています。近年、県と町で湯船原地区に3つの工業団地を整備し、多数の製造業の企業が進出しています。



### 4. 観光・文化

○本町は、世界文化遺産の富士山や関係する構成資産、金時山や富士箱根トレイルなど、豊かな自然環境や文化資産を生かした観光資源の整備を行っています。他にも、モータースポーツを体感できる富士スピードウェイや町内11箇所のゴルフ場等の観光資源を有しています。

○近年は、町内に宿泊施設が開業しており、富士山をはじめとした観光やスポーツ合宿等に利用されています。

○滞在型の集客にも力をいれており、足柄SA周辺地区、小山PA周辺地区は新たな地域の観光資源を活用した土地利用を予定しています。

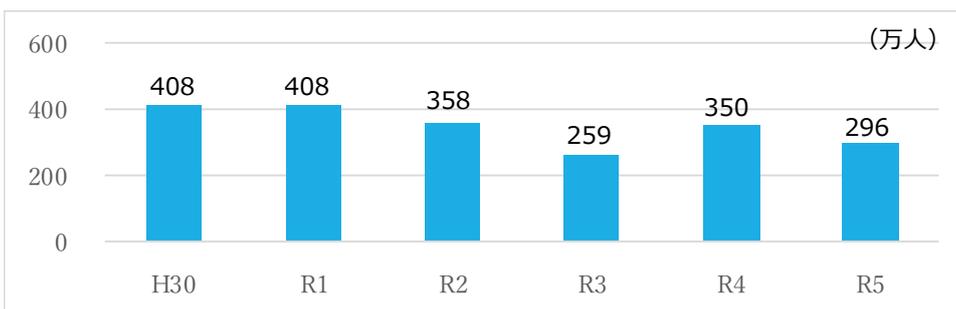
○本町における観光交流客数は、「道の駅ふじおやま」や「道の駅すばしり」のオープン、外国人観光客の急激な伸び等の影響を受け、毎年400万人を超える水準を維持してきましたが、新型コロナウイルスの影響で2020（令和2）年以降は減少傾向にあります。



富士山頂付近



富士スピードウェイ

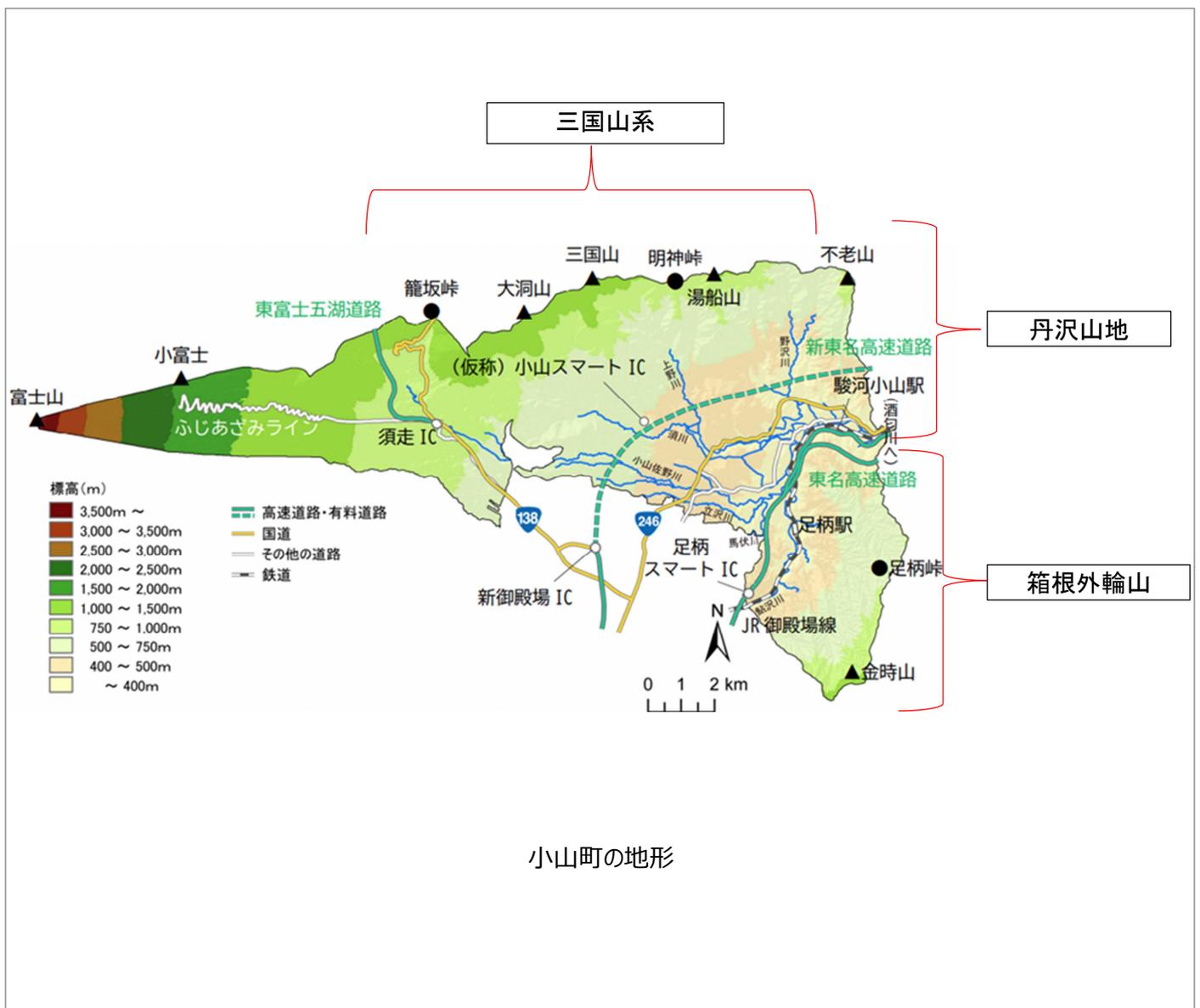


小山町観光交流客数

## 2-2 地域特性の把握

### 1. 自然的条件：立地について

- 町の象徴である富士山は、2013（平成 25）年に世界文化遺産として登録され、小山町内では、須走口登山道および富士浅間神社（須走浅間神社）が世界遺産の構成資産として登録されています。
- 富士山頂とこれに連なる富士外輪上の三国山系（三国山 1,320m）、北東方の丹沢山地（不老山 930m）、東南方の箱根外輪山（金時山 1,212m、足柄峠 759m）と、々に囲まれ、緑豊かな自然環境と豊富な湧水、田園の広がりから恵を受けています。
- 富士山東南麓、丹沢西麓、箱根北東域に降った雨を集めて流れる鮎沢川は、馬伏川、須川、野沢川等を合わせて東に流れ、酒匂川となって相模湾に繋がっています。
- 豊かな自然資源を生かしつつ、環境や文化的な価値を保全しながら地域と共生する形での再生可能エネルギーの導入が求められています。

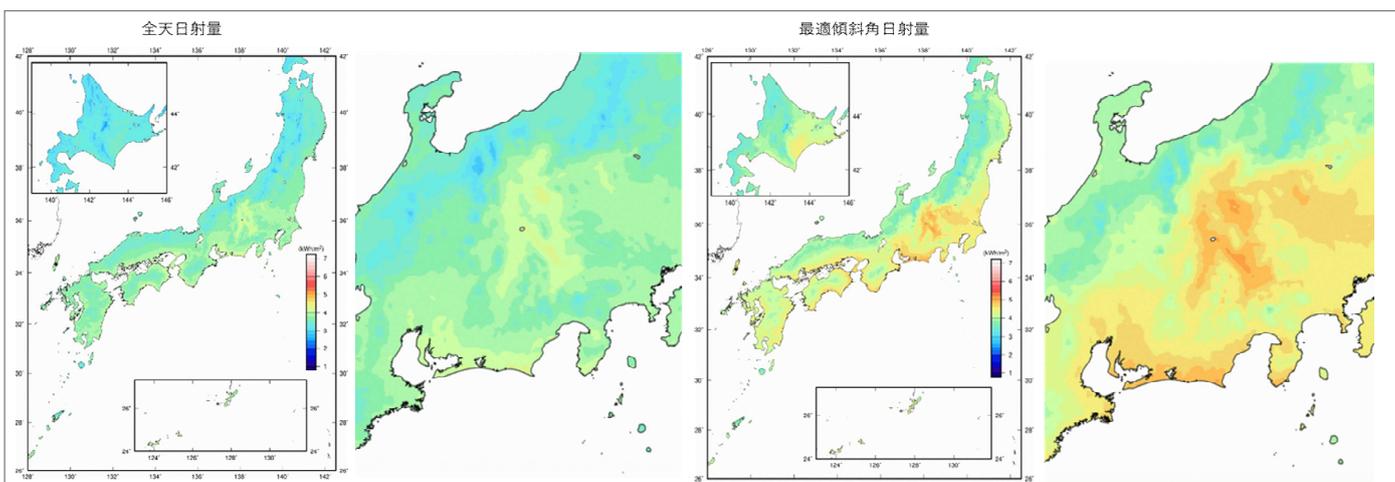


## 2.自然的条件：天候・気候について

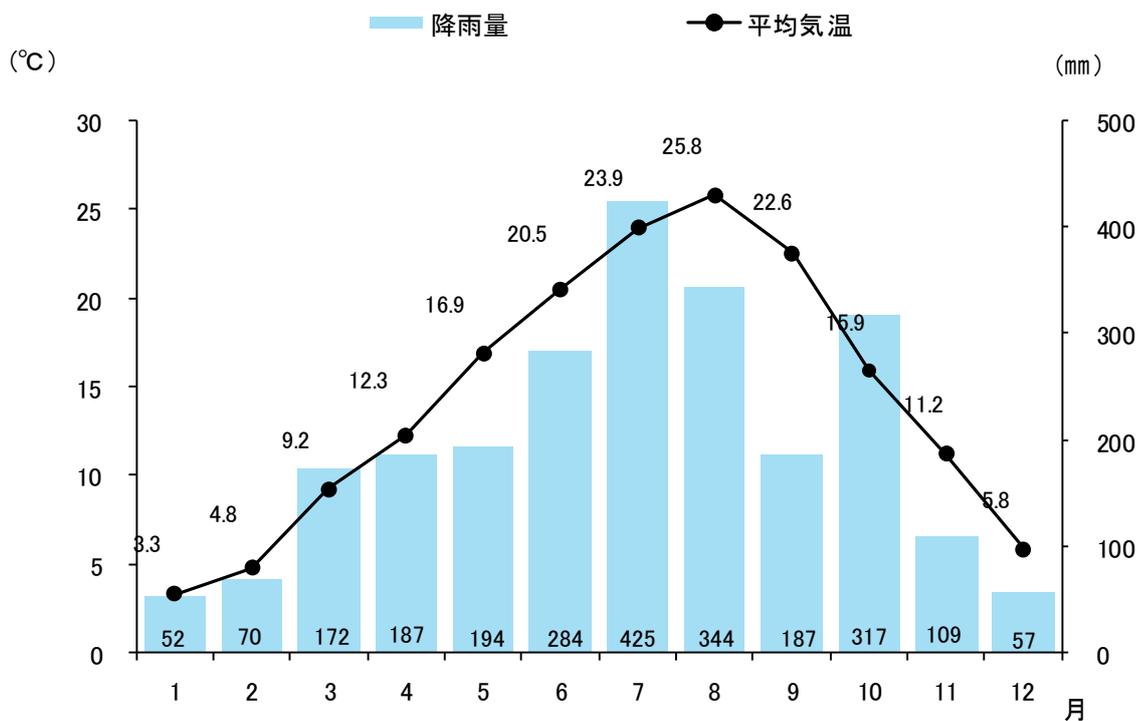
○小山町は、全天日射量 3.5kWh/m<sup>2</sup>、最適傾斜角日射量 4kWh/m<sup>2</sup>に近い地点が多く、日射量データのマッピングによると全国平均値程度といえます。

○過去 10 年間の平均気温は観測値である小山消防署周辺で約 14℃、8 月の月平均気温と 1 月の月平均気温との年較差は 22℃程度となっています（富士山頂の気温を除く）。また、霧の発生が多い地域でもあるため年間の平均日照時間数は 1800 時間以下（静岡市の 2024（令和 5）年度の日照時間は 2,459 時間）となっています。

○過去 5 年間の月の平均気温及び平均降雨量によると、最高平均気温は 8 月の 25.8 度で、最低平均気温は 1 月の 3.3 度となっており、雨量は 6 月から 10 月までが多く、平均年間降雨量は約 2,400mm となっています。



日射量データ NEDO 日射量データベースより



令和元年から令和 5 年度平均気温・平均降雨量データ（小山町の統計）

### 3.経済的条件：工業

○1889（明治 22）年、東海道本線が開通し、小山駅（大正元年から駿河駅、1952（昭和 27）年から駿河小山駅）が開設されました。その後、鉄道幹線の開通もあり、日本の工業化を先導した富士紡績株式会社が小山町に進出しました。戦後の 1965（昭和 40）年には富士スピードウェイが開場したことに伴い、自動車関連企業も多く所在しています。

○エネルギー生産性（図 1）は、企業が事業で消費するエネルギーをどれだけ効率良く利用しているかを示す指標で、小山町の第二次産業でのエネルギー生産性は全国平均に比べ約 2.6 倍の 93.6 で、高い水準といえます。また、全産業でも全国平均及び静岡県平均を上回っています。

○地域内における生産・販売、分配、支出の 3 つの要素が循環することで、所得が流入しながら地域経済が回る指標を示す、地域の所得循環構造（図 2）によると、小山町のエネルギー代金は域外へ 19 億円の流出となっており、その規模は GRP（地域内総生産）の 1.7%を占めています。

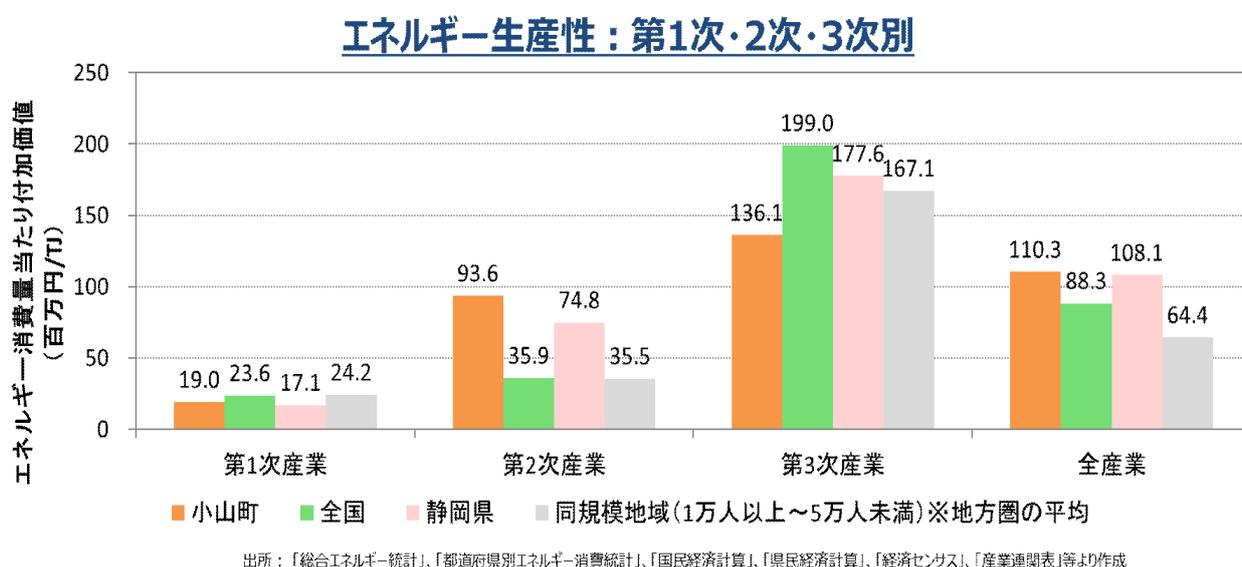


図 1 小山町の産業別エネルギー生産性 地域経済循環分析自動作成ツールより

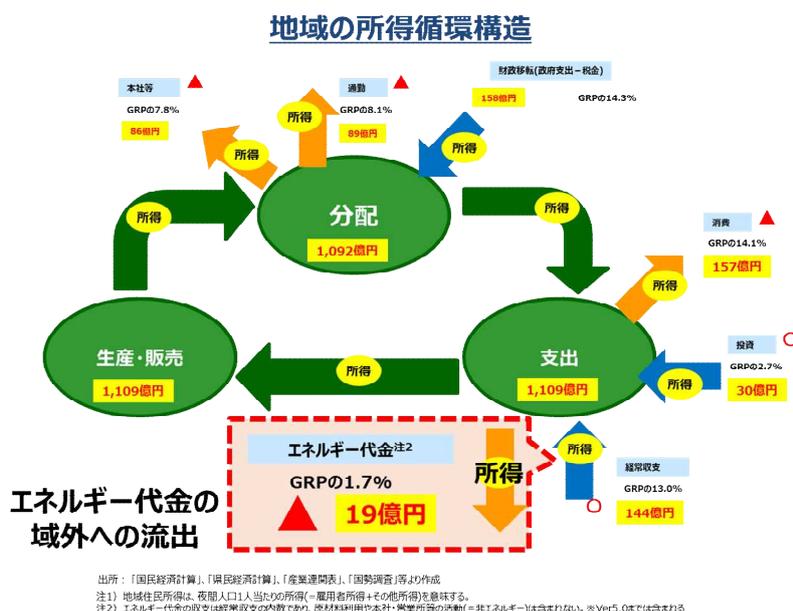


図 2 小山町の地域の所得循環構造 地域経済循環分析自動作成ツールより

## 4.社会的条件：自動車保有台数

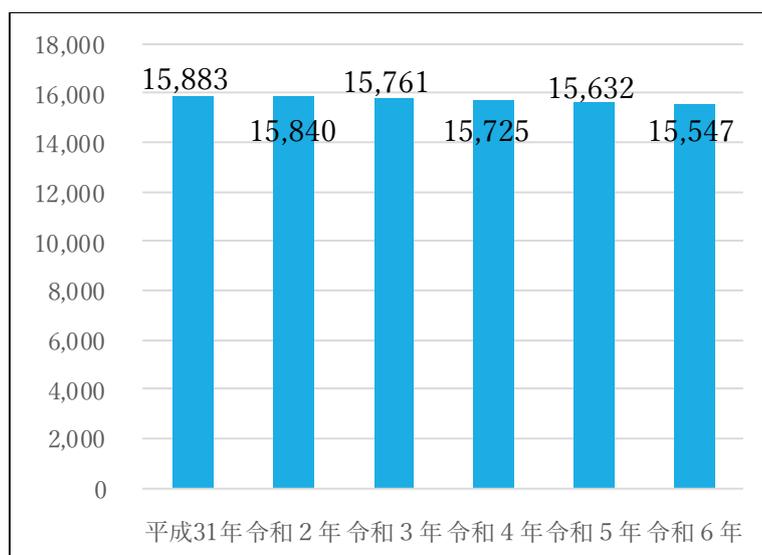
○小山町の自動車保有台数は 2024（令和 6）年 4 月 1 日時点で 15,547 台となっており、1 世帯当たりの平均保有台数は 2.1 台となっています。自動車保有台数は、2019（平成 31）年から年々減少していますが、2022（令和 4）年度の 1 世帯当たりの平均保有台数が 1.72 台であることから、1 世帯あたりの所有台数は増加しています。

○電気自動車の保有台数は 2019（平成 31）年度から 20 台前半で推移しており、大きな変化は見られません。

○一方、電気とガソリンを併用して走行するプラグインハイブリッド（PHEV\*）は、2024（令和 6）年度で 44 台所有しており、2019（平成 31）年度保有台数の 26 台から大きく増加しています。

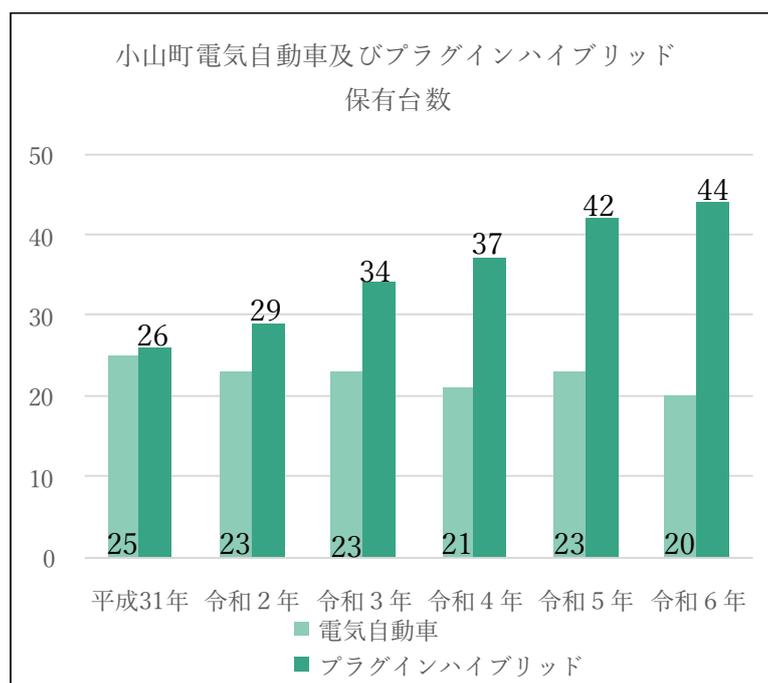
○2024（令和 6）年度の町の保有台数に対する電気自動車の割合は 0.12% で、PHEV 車は 0.28% となっており、全体に対する割合は低い状況にあります。

○電気自動車を含むクリーンエネルギー自動車の普及には、充実した充電ステーションの整備が必須となりますが、現状では公共施設の充電ステーションは「道の駅ふじおやま」、「道の駅すばしり」の 2 箇所のみとなっています。



小山町の自動車保有台数

出典：静岡県自動車保有台数調査



小山町の電気自動車及びプラグインハイブリッド保有数

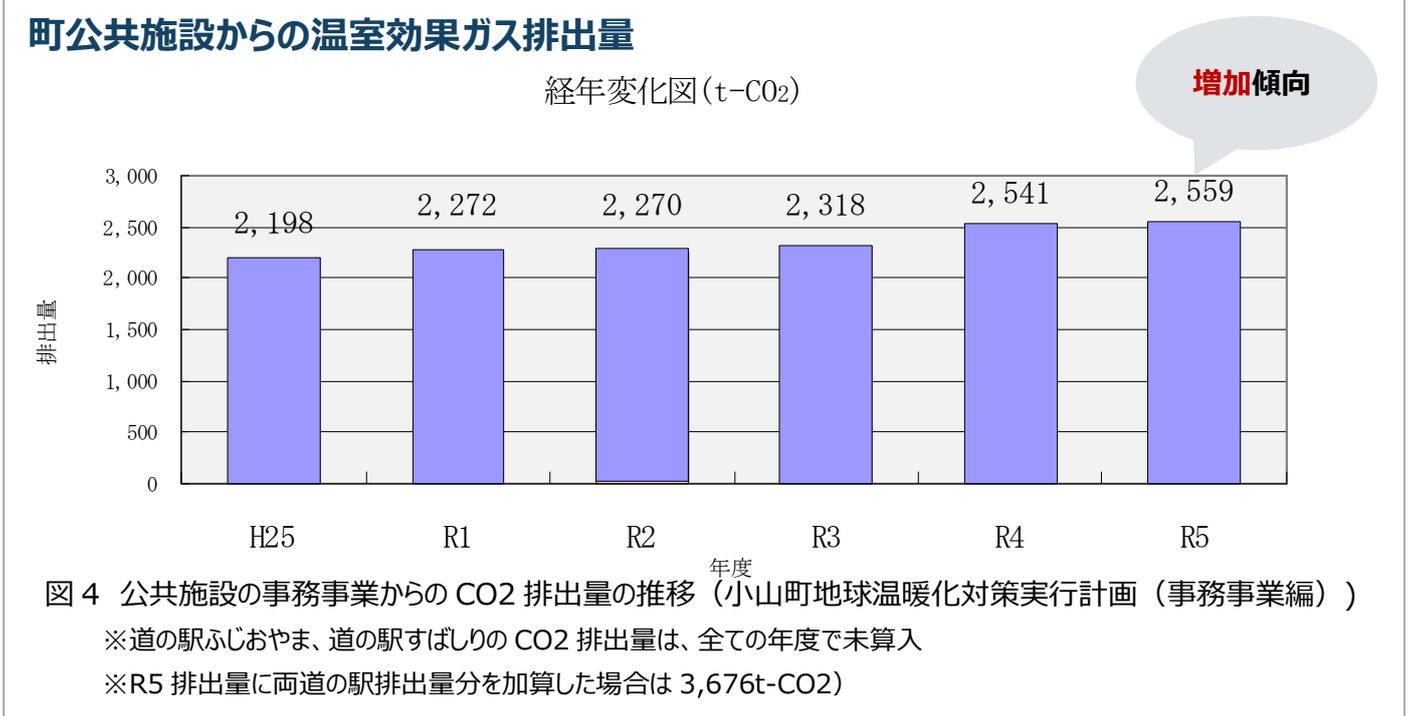
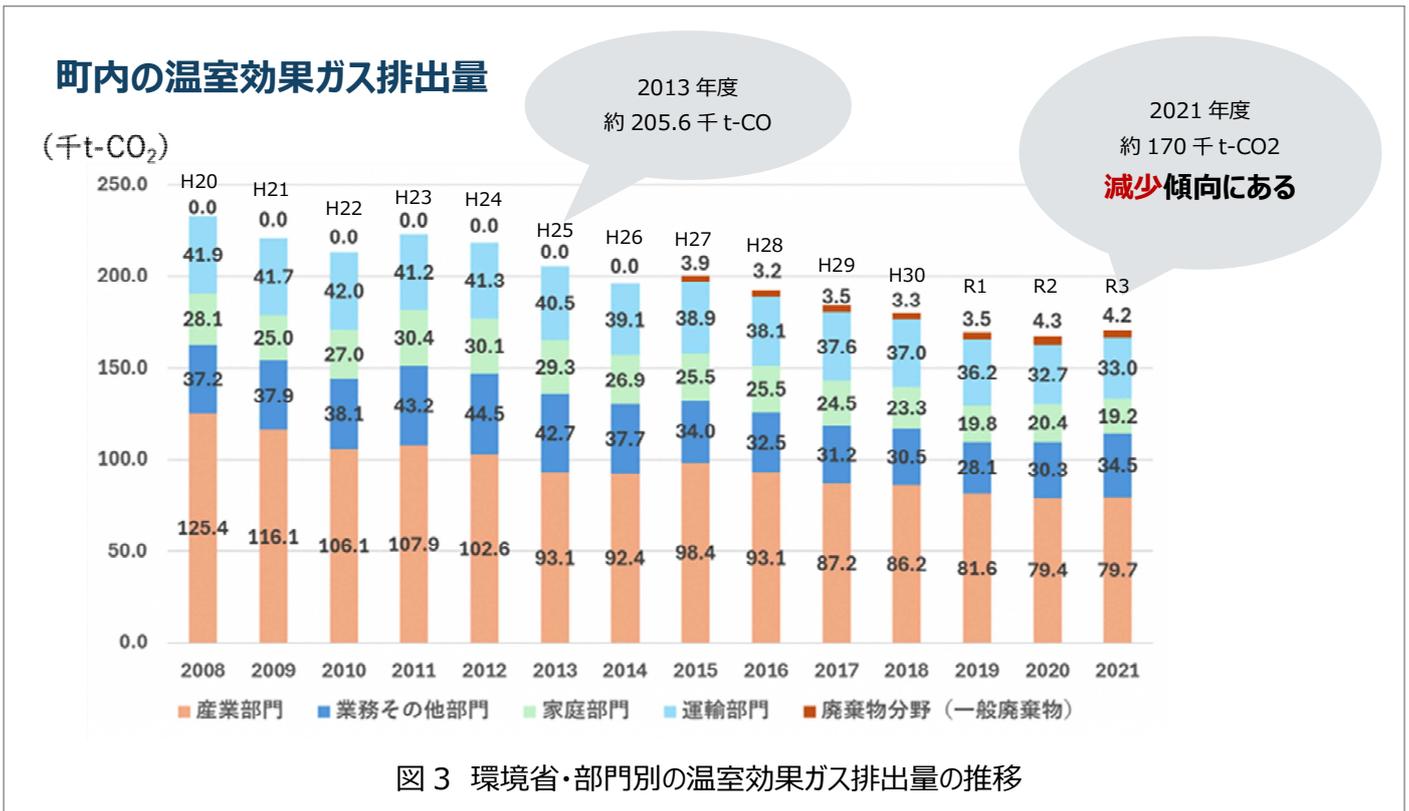
出典：静岡県自動車保有台数調査



## 2-3 地域内の温室効果ガス排出量

○町内の温室効果ガス排出量（CO<sub>2</sub>換算）は減少傾向です。町内から排出されるCO<sub>2</sub>排出量は、2021年度の時点で170.6千t-CO<sub>2</sub>\*で、最も高い部門は、産業部門の79.7千t-CO<sub>2</sub>、次いで、業務その他部門の34.5千t-CO<sub>2</sub>、運輸部門の33.0千t-CO<sub>2</sub>、家庭部門の19.2千t-CO<sub>2</sub>、廃棄物分野（一般廃棄物）の4.2千t-CO<sub>2</sub>でした。（図3）

○一方で町公共施設からのCO<sub>2</sub>排出量は増加傾向にあります。新たな公共施設の設置や、これに伴う電気使用量増加が増加傾向の要因であると推測されます。（図4）



## 2-4 地域における CO2 削減に向けた取組みの現状

### 1. 大規模ソーラー発電所

○2017（平成 29）年に湯船原に面積約 27ha、出力 16.4MW の太陽光発電所「DREAM Solar ふじおやま」が完成しました。売電権限については大和ハウス工業株式会社が有しており、2036（令和 18）年まで FIT\*の期間があります。



「DREAM Solar ふじおやま」

### 2. 木質バイオマス発電

○2018（平成 30）年に湯船原の林業エリアに出力 165kW の木質バイオマス発電「森の金太郎発電所」が完成しました。

当該施設は 2038（令和 20）年まで\*FIT の期間があります。



木質バイオマス発電所「森の金太郎発電所」

### 3. カーシェア・デマンドバス・巡回バス

○町では、2024（令和 6）年 6 月より、JR 足柄駅前足柄支所駐車場にてトヨタカローラ静岡株式会社の協力のもと、カーシェアリングサービス\*を導入しました。

○町デマンドバス\*の運行は 2020（令和 2）年度から運行開始しており、現在ワゴン車 3 台での運行体制で、電話とアプリで予約を行うことができます。



左：カーシェアリングサービス  
右：小山町デマンドバス

### 4. サイクリング

○2020（令和 2）年 JR 駿河小山駅前に「フジサイクルゲート」を整備し、シャワー室や更衣室、軽食をとることができる場所を設置し、電動アシスト自転車等の有料レンタル等も行っています。さらに、公共交通機関の利用促進を図るため、JR 足柄駅に駐輪場を整備し、公共施設等へサイクルラックの設置等も行っています。



JR 駿河小山駅前のフジサイクルゲート

### 5. 助成金等

○本町では、2024（令和 6）年 4 月 1 日から「小山町クリーンエネルギー機器設置事業助成金」として、太陽光発電システム・太陽熱利用システム・蓄電池・クリーンエネルギー自動車の購入をする町民に対し、助成金を交付しています。クリーンエネルギー自動車は、事業用で使用する車両も対象としています。

## 2-5 地域における再生可能エネルギーの導入状況

### 1. 再生可能エネルギーの導入設備容量

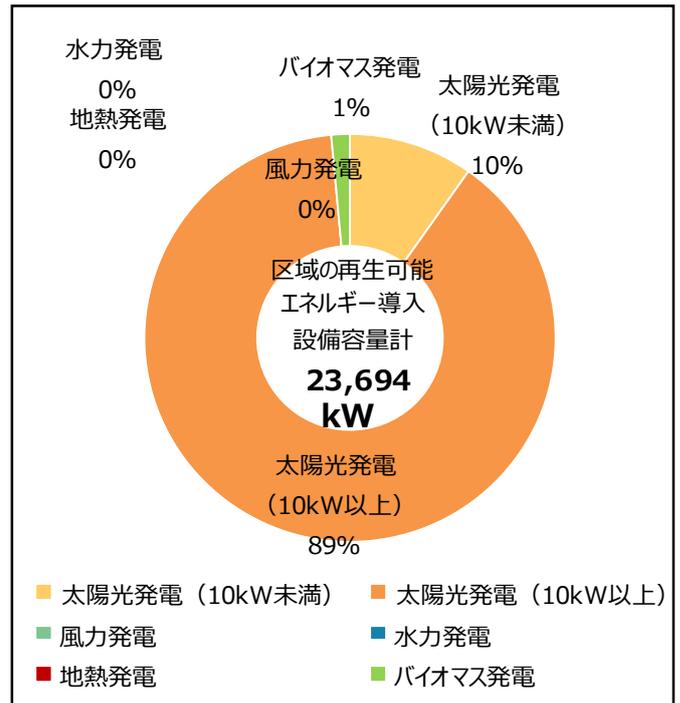
○町では 2022（令和 4）年度までに、23,694kW の再生可能エネルギー発電設備が導入されて、99%が太陽光発電となっています。

※再生可能エネルギー導入設備容量は、FIT※・FIP※制度で認定された設備のうち買取を開始した設備の導入容量を記載しています。売電していない設備、FIT・FIP 制度への移行認定を受けていない設備等は、値に含まれません。

○太陽光発電の内、10kW 未満が住宅用太陽光発電としたとき、約 2,370kW 分を各家庭で発電していることとなります。

○2022（令和 4）年度までの設備容量による発電電力量は、合計 33,027MWh でした。

※発電電力量は、定格出力[kW]×設備利用率[%]×24[時/日]×365[日/年] = 年間発電電力量[kWh/年]で算出。  
設備利用率は地域差等があることから目安量となります。



地方公共団体の再生可能エネルギー導入状況及び導入ポテンシャルの現状把握

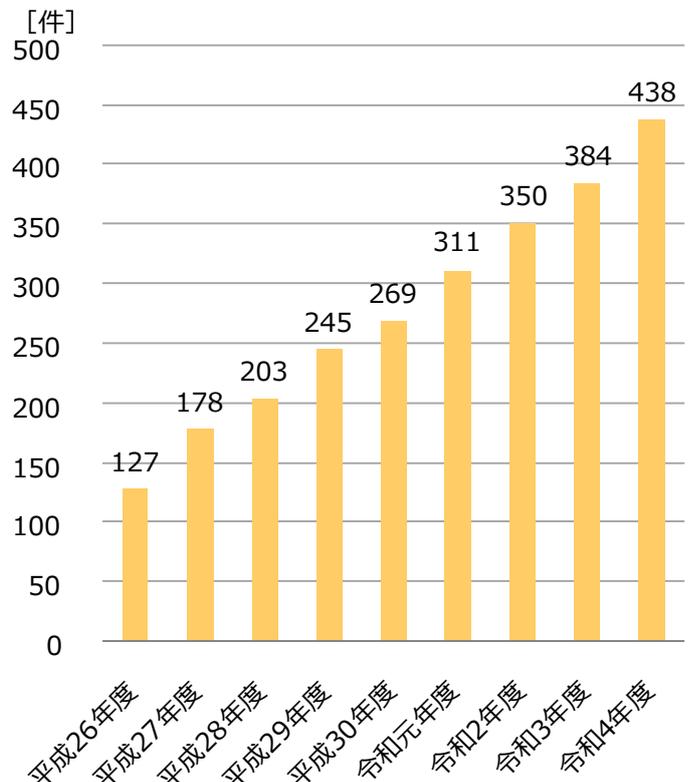
(出典：環境省自治体排出量カルテ)

### 2. 太陽光発電設備容量の推移（10kW 未満の累積）

○10kW 未満の太陽光発電設備は小規模であることを示すため、住宅用太陽光発電設備の件数として推測できます。

○2014（平成 26）年度から太陽光発電設備を導入する住宅が増加しており、2023（令和 5）年 3 月 1 日の小山町の世帯数 7,548 に対し、約 5.8%の住宅で導入していることとなります。

○近年度は 10kW 以上の太陽光発電設備を導入する住宅も増加していること、売電をせずに自家消費のみで太陽光発電設備をそ導入している住宅もあることから、町内の住宅における太陽光発電設備導入率は 5.8%よりも高い数値となることが予想されます。



地方公共団体の再生可能エネルギー導入状況及び導入ポテンシャルの現状把握（出典：環境省自治体排出量カルテ）